



University of the Ryukyus Library Bulletin, Vol. 25 No. 1 Mar. 27 1992.

## 『新入学生へ』

附属図書館長 比嘉 長徳

新入学生諸君、おめでとうございます。

諸君は各人各様、それなりの思いを胸に秘めて、わが琉球大学の門をくぐったことと想います。これからの大学生活は、十数年にも及ぶ学生生活の最後を締め括る4年間であり、自覚ある社会人として力強く羽ばたくために、各人が持っているポテンシャルティを再確認あるいは発見して、それをじっくり磨き上げ蓄積すべき人生の貴重な時期であります。幅広い教養や、将来の職業の基礎作りとなる専門的知識を得ることは無論のこと、その修得過程を通して、有為な社会の一員としての人格形成をする重要な時期であります。大げさ

なことはそれ位にして、いま挙げました教養・専門的知識の修得と、人格形成の一翼を担う情報供給源としての大学図書館の立場から書いてみたいと思います。

今までの学校生活に比べ、大学にはいろいろな意味で自由があります。高校のようにホームルーム制もありませんし、教師は生活面で一々面倒なことは言いません。時間割りも各人各様に組み立てます。必修が何単位、選択が何単位ぐらいの制限はありますが、これも今後ますますゆるやかになっていく筈であります。とにかく今までの学校生活に比べ、遙かに自由を享受し得るのが大学です。しか

### 目 次

新入学生へ .....	1	<お知らせ> .....	10
自著を語る .....	3	1992年新規・中止雑誌リスト .....	11
資料紹介：「Le Tour du Monde」(4)・5		図書館事情 .....	15
沖縄関係図書新着案内 .....	7	医学部分館だより .....	16

し自由であるということは、反面、大いに自主性が要求されるということです。与えられた自由をどう使うかということ、基本的には各自で解決しなければなりません。この自主選択や自主解決と、図書館はどう関わっているのでしょうか。

アメリカの大学生と日本のそれを比べてみますと、アメリカの学生の方が、勉学に割く時間が多いというのが定評のようです。私の三度の渡米経験から言っても、確かに向こうの大学生はよく勉強していました。図書館もよく利用していました。講義で教授が指摘した参考文献を借りに図書館へ行くと、大概、その文献は同じ講義を受けている他の学生に、既に借り出された後でした。向こうでは、「Sweet Sixteen」（甘美な16才）という言葉に表されているように、高校時代は恋愛や遊びで楽しく過ごし、大学に入ると本気で勉強します。

教育環境が違うといってしまうまでもありますが、そしてこのことは国を挙げてなんとか改善すべき問題でしょうが、日本では高校までは受験々々と追いまくられ、人間形成に関わる問題を、一時棚上げせざるを得ない不幸な教育環境が存在することは否めません。そういう日本の状況の中で「自由」が与えられると、いきおい、その自由な時間を、「甘美な遊び時間」の取り戻しに使う学生たちも現れます。口さがないマスコミ人はそういう学生たちをみて、今や大学は「総合レジャーランド」化したと言います。そういえばわが琉球大学でも、四月早々車上にサーフィンボードを乗って登校する車を見かけることがあります。

一方、講義やサークル活動での仲間との出会いを通じ、大学生活では一時棚上げされていた「自分探し」の問題を追求する時期だ、と考えている頼もしい学生たちも確かにいます。大学生活のメインである講義は、通常一定時間の出席が義務づけられています。それ

に比べますと、図書館については通館時間の上限も下限もありません。「来るはよし、来ないは勝手」という訳です。そして一つ確実に言えることは、「来る」と「来ない」とでは、四年後には「自分探し」即ち、「自己発見」、「自己陶冶」の面で、尋常一様的手段では是正の効かぬほどの格差がつくということです。

断るまでもないことですが、「来る」とは、図書館利用本来の意味で来館することです。現在わが附属図書館には、一日平均約1,000人の来館者があります。これは資料によりますと、全国の同規模の大学図書館に比べ、数字的には優に平均を上回る数値です。図書館での利用状況のよしあしは、「来た、人の館内での活動状況で決まることは言うまでもありません。来館者の館内での活動状況とは、（これは新入生への辞として書いておりますので、入門的なことを書かざるを得ませんが）、おおよそ次の活動をさします。別の言葉で言いますと、図書館の上手な活用ということ。

- (1) 図書館の機構と所蔵資料を知ること
- (2) 図書館の利用規則をよく知ること
- (3) 資料の探し方と借り方を知ること
- (4) 資料についての情報を知ること（以上、詳細は『図書館利用案内』参照）

現在、琉大図書館には、図書だけでも約70万冊の蔵書があります。本図書館にない資料については、相互貸借システムを通じ、他の図書館から借りだすこともできます。また、東京の学術情報センターを通じ、日本全国の主要図書館及び外国の文献の入手も可能になってきました。大学の図書館は、学習機能を主とする高校の図書室とは、質的に且つ量的に異なります。

新入学生諸君、オリエンテーション、館内ツアー、説明会等を通じ早めに図書館に馴染んで下さい。諸君の四年間の健闘を祈ります。

（ひが ちょうとく 法文学部教授・米文学）

## 自著を語る

木村政昭

『ムー大陸は琉球にあった!』(徳間書店、1991年)請求記号K455-KI:『南海の邪馬台国』(徳間書店、1992年)請求記号K201.3-KI

### 1. はじめに

ここに二つの著書をあげさせていただいた。前者は1991年6月出版、後者は1992年2月末の出版である。二つあげさせていただいたのは、両者密接な関係があるからである。

ムー大陸とは、数万年前に一大文明が栄えていた南太平洋全域を覆うほどの伝説上の巨大大陸のことである。しかしその大陸は、1.2万年前ほど前に地殻変動により一瞬のうちに水没してしまったという話が、イギリスの軍人であったジェームズ・チャーチワードによって伝えられている。似たような話に、アトランティス大陸伝説がある。これは、大西洋の真ん中に大陸があり、やはり1.2万年ほど前に突如として沈んでしまったというのである。こちらの方は、近年の海洋地質学的調査により、エーゲ海の一火山島の水没の話ということで一応の決着をみた。ところが一方、太平洋のムー大陸の方はそのような科学のメスが入られることがなかった。

しかし、近年の潜水船「しんかい2000」等を使っての海洋地質学的調査により、今から2万-1万年頃に沈んだ大陸の一部、「琉球古陸」の姿が浮かんできた。それは、水没した伝説に言われるムー大陸と多くの類似性もっていることを紹介したのが前者である。

私の専門は、海洋地質学とあって、海底がどのようにしてできたかということ調査・研究する学問分野である。このようなテーマは、専門からはずれた部分を含むだろうから、ペンネームで書いたほうが良いのではないかと忠告してくれる学友も居た。しかし、これ

は文学や小説の様な創作とは異なり、学問上の一つの仮説を提示したものであるため、実名とした。事実、数万年前に沈んだ大陸があるかどうかを確認するのは、まさに海洋地質の学問領域の問題である。本書により、これまで海洋地質学的にメスが入られてなかった点を明らかにし得たと思っている。また後者の書に際しても、そのテーマは歴史の分野で取り扱われるべき問題のようにとられるであろう。しかしここには、海上交通の問題が出てくる。これは、海洋関係者が責任をもつ部分であろう。また、地理学も関連するはずである。

### 2. 最後の陸橋

私の調査の結果では、大陸と南西諸島をつなぐ第四世紀最初の陸橋の姿が浮かび上がってきた。まずは、200-100万年ほど前のものがある。これは、中国大陸から台湾を通り奄美大島、トカラ列島まで連続する陸の橋(陸橋)である。これを伝わってハブやヤンバルクイナ等が渡ってきたと考えられる。この陸橋があっても良い事は従来より指摘されていたが、直接音波探査記録やボーリング資料等の海底の資料を用いて実証的に明らかにしたのは、著書によるものがはじめてである。やがて、この陸橋が沈み、ハブもそれと共に水没する。その海にたまったのが琉球石灰岩である。

次に、20-1.8万年前。この時期に再度、中国大陸から奄美大島までつながる陸橋があらわれる。これは、「しんかい2000」の潜水調査などにより、多くの方々の協力を得ながら、著者によってはじめて明らかにされたものである。したがって、その引用のない地図は不正確と言われても止むえない。これを

「最後の陸橋」とした。このとき、港川人など新人がイノシシと共に大陸より渡来してきたと考えられる。

また、最近の検討では、奄美大島北方のトカラ海峡も当時の陸橋が続いていた可能性が出てきた。さらにこれを渡って人類の北方への移動が行われていたかもしれない。これが私の今後の研究課題である。

太平洋の真ん中に大陸はなかった事は、プレート・テクトニクスの検証により明らかにされたため、チャーチワードの言う太平洋大のムー大陸はなかったことは明らかである。しかし、その近くに同じ時期に沈んだ大陸部分が見つかった、このようなところは現在のところ太平洋の他の地域では見つからない。したがって、ここをあらためてムー大陸と再定義しても良いことになる。

### 3. 邪馬台国

これは、『魏志』倭人伝をすなおにたどってゆくと、邪馬台国は“沖繩”にあったということを描いた初めての書であるらしい。これまでは、『魏志』倭人伝どおりであると九州を通り越してしまうので、方向を東へ変更させて畿内へもってゆくか、方向は正しいが距離が誤っていると九州内へとどめていたのが主な説となっている。

さて、方向・距離ばかりでなく、沖繩の地名が邪馬台国および周辺のそれに比較的良く当てはまるように見える。それら地名（邪馬台国時代の国名）は沖繩本島の琉球王朝時代の間切（まぎり）にはほぼ一致する。結果的には、邪馬台国そのものは、三山時代の「中山」にはほぼ一致する。

従来の研究者はほとんど文化系の人々であったため、自然地理的な考証はあまり行われていなかったようである。ましてや、海上交通についての検証はほとんどなされていない。私の研究はその点を少しでも補うことができたと思っている。

### 4. ムー文明と邪馬台国文明は同根？

ここからは、余談めいた話になるが、チャーチワードの指摘するムー大陸を表わすシンボルは、三本の縦線で示される山形である。これは、琉球では縄文時代から認められ、弥生時代に邪馬台国を示すシンボルとなっているようにみえる。このことからムー文明と邪馬台国文明とはつながっていると見た。すなわち、それは「山（やま）」に通じ、「邪馬（やま）」台国に通じるようにみえる。また、ニライカナイおよび太陽信仰による強い結びつきが、どちらも推定される。

以上より想像するに、案外ムー伝説は、千数百年前の邪馬台国あるいは倭国の文明に関連するものが言伝えられていたのかもしれないと思える。すると、この話はアトランティス伝説と同じ様に、今から2000年ほど前の倭国の話しということが現実かもしれない。しかし、それにしてもその根は卑弥呼以前にさらに深く広がっていたのであろう。

### 5. おわりに

その根の深さを示すものは、南西諸島にみられる先史モンゴロイドにあたる、今から2-3万年前の更新世のヒトの化石であろう。とくに、日本では唯一完全な骨格が得られている港川遺跡の存在はますます重要になると思われる。最近、その港川遺跡より出土した人骨十体に及ぶすべてが、地元沖繩に戻ってきていないという事実を知り疑問を感じている。港川人骨は、那覇市在住の大山盛保氏が1967年に発見・発掘、更にそれ以降のものを加えて東大に鑑定を依頼したものである。しかしその後二十数年たった1992年現在、一体も沖繩に戻ってきていない。その主な理由は、沖繩に受け入れる用意がされていないということらしい。港川人化石の所有者である大山氏は、化石が一日も早く沖繩に戻ることを希望している。琉球大学としても、港川人が沖繩に戻ってくるよう受け皿作りに協力をするべきではなからうか。

(きむら まさあき：理学部助教授・堆積学)

## 資料紹介

*Le Tour du Monde* (『世界一周旅行』) シリーズと M.-J. Revertegat  
(ルヴェルトガ) : “Une Visite aux îles Lou-Tchou” (琉球諸島紀行) [4]

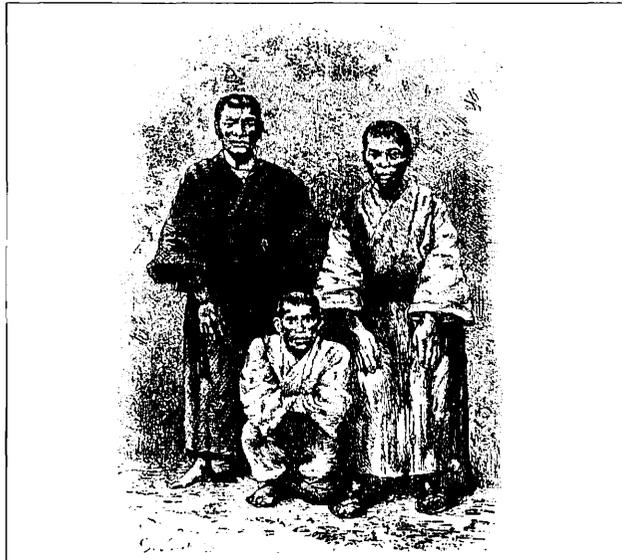
森田 孟 進

江戸の日本政府から派遣されている役人、アヤシ・タネモリがコルベット艦を去ると、琉球王府の役人たちは再び小船を寄せ、艦に上がってきた。彼らは日本政府の役人の目を避けるためにコルベット艦を降りた後は艦の周りをまわっていたのである。彼らのうちの幾人かはその責任ある役職を名乗った後で(彼らの銀のかんざしがその身分をすでに示している)、フランス人たちに水、卵、薪などは要らないかとたずねた。ついで、薩摩の士族たち (le clan de Satsuma) がミカドの政府、に対して戦いをいどんだというのはほんとうか、ときいた。琉球の役人たちは南西戦争の情報を得ようとしているのである。ここでいま一度記すと、ルヴェルトガが琉球に来て

いるのは明治10年5月である。いま、手元にある『近代日本総合年表』(岩波書店・1978)の明治10年の頁を開いて見ると、4月14日「黒田清隆の率いる政府軍、熊本城に入る」、4月27日「参軍川村純義ら、海路鹿児島に至り、兵を各地に配置」、5月2日「鹿児島県庁開く」とある。西郷隆盛・桐野利秋らが城山で自刃するのは同年の9月24日であるが、

5月にはすでに西郷軍の配色は濃い。琉球の役人たちの質問にルヴェルトガからはどんなふうに答えたのか——「日本のくびきから脱したいと願い続けている琉球の人々に対して彼らの愚かな望みをことごとく打ち砕くようなやり方で答えた」とルヴェルトガは書いている。ルヴェルトガがなぜ明治10年5月に那覇港に現われたのか、その紀行文を読むかぎりでは明らかではないが、4月27日に「参軍川村純義ら、海路鹿児島に至り、兵を各地に配置」という政府軍の作戦行動と関係があったのかも知れぬ。

ルヴェルトガは琉球の人々を次のように観察している——「琉球の男性たちは日本人男性をしのばせるが、琉球の女性たちは日本人女性とは何らの共通点も持ち



明治10年、琉球の人々。Revertegatの写真に拠って、G. Vuillierが抽いた。

合わせていない。支那と同じく、琉球では、上流階級の女性は人目に触れないように隠れているのである。が、庶民の女性たちは殆どどの仕事に従事している。庶民の女性たちは、服といえば、帯のない、長い仕事着を着ているだけである。彼女たちの髪は男性たちの髪とほぼ同じように整えられているが、男性とくらべると、ぞんざいである。頭のとっぺん

にできる結び目は男性のそれよりも大きいし、結び目をとめているのは一本のピンだけであり、男性のものより長い。琉球の女性たちには、その手の甲に、点と線の、多かれ少なかれ規則的な形の唐草模様 (arabesque) を支那墨で描く慣習がある。彼女たちは年を取るにつれて、この入墨をだんだん間隔の狭い模様にしてゆくの、老いた女性たちは真黒い手の甲を持つことになるのである。琉球の人たちは日本人に比べて赤らんだ皮膚を持っていて、背も高い。眼は日本人のように切れあがっていないし、鼻も大きい。」

ついで、ルヴェルトガは、琉球の言語、風物について、次のように続けている——「この国の言語は古い日本語であり、現在の日本語ともな

おかなり類似したものである。しかし、文字法は全く支那風で、音綴記号は知られていない。この音綴記号 (= ひらがな、訳者注) のおかげで日本語は表意文字 (= 漢字、訳者注) を日本語の特質にうまく従わせることができたのである。鹿児島へ商取引きのために行く大きなジャンク (帆船) —— つい最近まで支那の港まで行っていたジャンク —— は完全に支那風のやり方で造られ、装飾されている。これらのジャンクもまた支那のものと同じように船首の両側に象徴的な眼が附いている。この眼がないと、支那の船乗りたちは航海の危険に立ち向う勇気が出ないのである。が、琉球の人々の漁船はもっとも原始的な夕

イプのものである。それは木の幹を掘ったオセアニア風のカヌーであり、さんごが複雑に入りこんでいるところへも入ってゆけるのである。琉球人の住居はさんご石で造られている。このさんご石はこの国のいたるところの地表で採掘される。屋根は琉球人自ら製産している半円筒形の赤瓦でおおわれている。むしろ (nattes) と仕切り壁でできている内側

にいと、日本の家の中にいるのと何ら変わらないと思うが、外側は支那の田舎の住居のスタイルとよく似ている。すなわち、住居は石の壁で取り囲まれ、好奇心から内側を覗いてみようとしても、門の内側には目かくしとして使われる第二の壁があるので、内側は全く見えないしくみになっている。街の通りは石垣の長い

列でできている。奇妙な光景だ。たまに視界がひらけても、またたちまち石さんごの石垣が立ち現われるだけである。店 (boutique) というものは琉球には殆んど存在しないようだ。何かを買いたければ、市場 (marché) へ行かねばならない。下層の人たちの掘立て小屋のごとき住居はたいへん悲惨である。屋根をふくわら、寝床用わら、杭、これだけの材料でできている。材木は琉球にはたいへん少ない。鹿児島から輸入している。材木は高価なので、お偉方の住居と寺にしか使われていない。」 (つづく)

(もりた もうしん：教養部教授・仏文学)



groupe de Lau-Tedouans (roy. p. 254).  
Dessin de G. Vuillier, d'après une photographie.



## 沖縄関係図書新着案内

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。館内で探す時の手がかりとなります。

### 0類 総記

1. 沖縄書誌総覧：沖縄書誌の書誌（新城安善）沖縄県図書館協会 1991 025.9-SH
2. おきなわ 第25号 おきなわ社 1953 051-052
3. 県立博物館総合調査報告書II：渡名喜島 沖縄県立博物館 1981 069-KE
4. 沖縄の博物館ガイド（沖縄県博物館協会）沖縄県博物館協会 1990 069-OK
5. 戦争動員とジャーナリズム：軍神の誕生（保坂廣志）ひるぎ社 1991 070.2-HO

### 1類 哲学

6. 離婚王国沖縄の心：豊かな社会生活のために（本恵郷）K & M企画 1990 152.2-MO

### 2類 歴史

7. 考古学からみた琉球史 下：古琉球から近世琉球（安里進）ひるぎ社 1991 201-AS
8. 昭和回顧録（沖縄人事行政調査会）沖縄人事行政調査会 1990 201.7-OK
9. 昭和史のなかの沖縄：ヤマト世とアメリカ世（大城将保）岩波書店 1989（岩波ブックレット 135）201.7-077
10. 今帰仁のムラ・シマ（今帰仁村歴史資料館準備室）今帰仁村教育委員会 1990（なきじん研究 1）213-NA
11. 大典記念沖縄人事興信録（秦蔵吉）1929 280.3-HA
12. 沖縄人名年鑑 1969年版 沖縄名刺交換

会 1969 280.3-OK

13. 沖縄県人名鑑（琉球新報社人名鑑刊行事務局）琉球新報社 1991 280.3-RY
14. 沖縄経営者列伝 第2巻 現代経営出版社 1990 289-OK
15. わたしの歩み（里見哲太郎）1964 289-SA
16. 沖縄県勢要覧 昭和4、7年 沖縄県 1931-1934 290.3-052
17. 沖縄群島要覧 1950年版（沖縄群島政府統計課）琉球文教図書 1952 290.3-052
18. 八重山古地図展：手描きによる明治期の村絵図（石垣市総務部市史編集室）石垣市役所 1989 290.38-IS
19. 北海道と沖縄だけのリゾートの本 Vol.1 共同文化社 1990 290.5-HO

### 3類 社会科学

20. あごろ 146号 BOC出版部 1989 特集：沖縄を犠牲にした安保の上に眠れませんか 305-AG
21. 沖縄行政総覧：組織・人名ハンドブック 平成3年度版（長浜博文）沖縄社研出版 1991 310.3-052
22. 反天皇制運動 Vol.9（反天皇制運動連絡会）反天皇制運動連絡会 1987 特集：天皇の沖縄訪問を阻止しよう！ 310.5-HA
23. インパクション 第53号 インパクト出版会 1988 特集：「日の丸」はなぜ焼き捨てられたか 310.5-IN
24. 桜魂年鑑 平成元年度版 桜魂護国塾

1990 310.5-OK

25. 新地平 第154、176号 新地平社  
1987-1989 特集：皇族の沖縄上陸と象徴天皇制の政治力、広島・長崎・沖縄－反戦・反核運動の新たなうねりを！  
310.5-SH
26. 知花さんにつづけ：「日の丸」裁判・反天皇制闘争の勝利のために 第1集  
1989 312-CH
27. 安保・沖縄・天皇制：天皇訪沖の意味するもの（「働くなかまのブックレット」共同編集委員会）新地平社 1987（働くなかまのブックレット 6）312-HA
28. United states Civil Administration of the Ryukyu Islands, 1950-1960 : a historical analysis and appraisal; of a decade of civil administration of an Asian area (R.F.Hewett Jr.) Univ. Microfilms 1966 312-HE
29. 年表：沖縄問題と在京県人の動き 明治5年～昭和40年（神山政良）琉球新報社東京総局 1966 312-KA
30. The United States and Okinawa; a study in dependency relationship (H.A. Kampf) Univ. Microfilms 1972 312-KA
31. 沖縄：国際沖縄デーのために [1964] 312-OK
32. 天皇・沖縄・白保：忘んなよ沖縄（琉球大学法文学部江上ゼミナール）琉球大学法文学部 1989 312-RY
33. 那覇市例規集 全 那覇市役所 1936 318.1-NA
34. 東苑：崎山ハイツ自治会創立10周年記念誌 崎山ハイツ自治会 1980 318.3-TO
35. 沖縄県議会（臨時会）会議録 平成元年第3、4回（沖縄県議会事務局議事課）沖縄県議会事務局 [1989] 318.4-OK
36. 沖縄県議会（定例会）会議録 平成元年第2回（沖縄県議会事務局議事課）沖縄県議会事務局 [1989] 318.4-OK

#### 4類 自然科学

37. 亜熱帯地方・沖縄における台風による都市災害の特性評価とその防災力の変遷について（矢吹哲哉）[琉球大学] 1990（科学研究費補助金重点領域研究2研究成果報告書 平成元年度）451.7-YA
38. An enumeration of all the plants known from China Proper, Formosa, Hainan, Corea, the Luchu Archipelago, and the Island of Hongkong; together with their distribution and synonymy, Vol.1-3 (F.B.Forbes, W.B.Hemsley) Otto Koeltz Science Pub. 1980 Repr. of: 1886-1905, London 472-FO
39. 黄金のさなぎ：日本最大のチョウの一生（湊和雄）大日本図書 1990 486.8-MI

#### 5類 技術

40. 沖縄県主要水系調査書 沖縄本島中南部地域（沖縄県企画開発部土地利用対策課）沖縄県企画開発部 1989 517.1-052

#### 6類 産業

41. 向上適地調査：昭和63年度A,C 沖縄県 1989 601-SH
42. 九州沖縄八縣聯合共進會事務報告：第十四回 1922 602-DA
43. 起業の心得帖：チャンスを生かせ（古波津清昇）ブックボックス壺川店 1990 602-KO
44. 沖縄における民間活力導入基礎調査（沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部調査企画課）1989 602-OK
45. 沖縄県におけるバイオマス資源活用による産業振興調査報告書 地域産業技術振興協会 1986 602-OK
46. 沖縄における地域技術開発に関する調査研究・技術開発実行計画 地域産業技術振興協会 1984 602-OK

47. 沖縄県における製造業の自立的発展調査報告書（沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部調査企画課）1989 602-OK
48. 熱帯・亜熱帯の未利用植物資源の多目的高度利用システムに関する研究報告書地域産業技術振興協会 1984 610.4-NE
49. 経済更生特別助成町村概況及び経済更生計画実行費調 沖縄県 [1938] 611.18-KE
50. 九州・沖縄のローカルソイルの特性と土質改良 [1988] 613.5-KY
51. 土地分類基本調査：沖縄本島北部1「奥」「辺戸名」沖縄県 1989 613.5-052
52. バイオテクノロジー等の先端技術を利用した沖縄の生物産業技術の高度化に係わる調査研究 産業研究所 1984-1985（地域産業構造政策推進調査研究報告書地58-18,59-13）615.3-BA
53. 藍藻類生産システムの開発に関するフィージビリティスタディ報告書 機械システム振興協会 1986 615.3-RA
54. さとうきび及び甘しょ糖生産実績 昭和63～平成元年期 沖縄県農林水産部 1989 617.1-SA
55. 沖縄県家畜衛生試験場年報第23-24号（沖縄県家畜衛生試験場）1988 649.9-OK
56. ナカハラクロキ癌腫（こぶ）細菌病の病原と生態（大宜見朝栄）琉球大学農学部 1991（文部省科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書 平成元、2年度）654.7-OG
57. 商工行政概要 昭和63年度（那覇市経済部商工課）1989 671.7-N27
- 7類 芸 術
58. 沖縄工芸ニュース 創刊号－第13号 沖縄県工芸振興センター 1878-1983 750.5-OK
59. 沖縄諸島の古謡と舞踊（本田安次）民俗 藝能の會 1951 766.9-HO
60. 組踊脚本集 [1967] 国立劇場琉球舞踊公演：昭和42年1月 766.9-KU
61. 組踊名作集 おきなわ社 1953（おきなわ 第28号）766.9-KU
62. 琉球の音楽 第1集（山内盛彬）琉球の音楽出版部 1950 768.11-YA
63. 石川真生写真集：沖縄芝居仲田幸子一行物語（石川真生）1991 772.1-IS
64. 遙かなる甲子園 第10巻（戸部良也、山本おさむ）双葉社 1990 783.7-TO
- 9類 文 学
65. 文学 第57巻11号 岩波書店 1989 特集：新南島歌謡論 905-B89
66. 文化の窓No.11 沖縄市文化協会 1989 905-BU
67. 微風：ハワイ琉歌会創立十周年記念誌：祝沖縄移民入植90年祭（比嘉良信）ハワイ琉歌会 1990 913-HI
68. 琉球と奄美民謡（上別府操）南島民謡研究会 1955 914-UE
69. 銅鑼の憂鬱：詩集（伊波南哲）詩之家 1930 917-IH
70. 高良勉詩集（高良勉）脈発行所 1991（沖縄現代詩文庫 7）917-IA
71. 儀間眞常：戯曲（上間正敏）沖縄砂糖同業組合 1934 920-UE
72. 無償性の反抗（比嘉加津夫）比嘉加津夫 1967（比嘉加津夫作品種 4）930-HI
73. 新沖縄よばなし 続（島田光則）新沖縄社 1976 940-SH
74. 八重山戦日記（吉田久一）福祉春秋社 1953 950-YO
75. 沖縄文学全集 第1巻 詩I（沖縄文学全集編集委員会）国書刊行会 1991 980-OK
76. 琉球漢詩選（島尻勝太郎選、上里賢一注釈）ひるぎ社 1990（おきなわ文庫49）990-UE



## ＜お知らせ＞

### ◎ 複写室（コピー・サービス室）が移動しました

これまでの複写室が3階書庫入口の右側に移りました。図書館専用電算機設置の関係で移動したものです。  
(参考調査係)

### ◎ OPAC サービスを停止します

平成2年6月以来、教官研究室等の端末によるオンライン目録検索(OPAC)サービスを行ってきましたが、このたび情報処理センター電算機の機種変更に伴い、OPACサービスはしばらく停止します。なお、図書館内端末からの目録検索はできますので、ご利用ください。  
(閲覧係)

### ◎ 学術情報係が移動しました

学術情報係は隣の複写室に移動しました。図書館専用機の管理や、システムのメンテナンス、開発作業等を容易にするため場所移動したものです。

図書館電算室には情報処理センターのEWS、端末機等も配備されることになっていますが、一般利用者が電算室へ入室する時には学術情報係事務室(旧複写室)側から出入りすることにしております。

なお、従来利用していた雑誌閲覧室側入口からは出入りできませんのでご注意ください。  
(学術情報係)

### ◎ 図書館専用機による電子計算機システムの稼働開始

平成4年2月に稼働を予定していた図書館専用機によるシステムは、情報処理センターからのデータ移行作業や各業務システムの運用テスト等を終え、本格稼働することになり、その稼働式が2月3日(月)15時30分から図書館会議室を会場に学長、はじめ学内関係者多数を迎えて行われました。

まず、比嘉館長のあいさつに続き、砂川学長、藤城富士通沖縄支店長の祝辞、そして図書館システム紹介があり、電算室前でのテープカット、比嘉館長による始働式の後、館員が目録検索システムのデモンストレーションを行いました。

これまで情報処理センターの共用機に依存して行われていた図書館の電算業務が専用機に移行されたことにより、業務の省力化、能率化が、さらに推進されるものと期待されます。  
(学術情報係)

### ◎ コンテンツ・サービスについて

コンテンツ・サービスとは、図書館に到着した学術雑誌の最新号の目次をコピーし、その登録にある教官に送付するサービスです。

第193回図書館運営委員会で、平成4年度から有料化(1枚13円)することが承認されたのを受けて、現登録者に対して継続の希望を別検確認中です。新規の希望も受け付けますのでお申し出ください。なお、サービスの対象は校費移算が可能な教官(または学料、講座等の単位)に限ります。詳細は参考調査係(内線 2143、2145)までお問い合わせください。

## 1992年版 新規購入外国雑誌

誌名	発行頻度	発行国	購入学科
1 Applied Engineering in Agriculture	S-M	US	農学・農業工
2 Canadian Journal of Anesthesia	B-M	CN	医学・麻酔科
3 Erwachsenenbildung	Q	GE	教育・教育
4 European Journal of Applied Physiology and Occupational Physiology	8 N	GE	医学・保健医学
5 Journal of Academic Librarianship	B-M	US	図書館
6 Journal of Cross-Cultural Gerontology	4N	NE	医学・保健社会学
7 Journal of Materials Processing Technology	12N	NE	工学・機械/エネ機 短大・機械
8 International Journal of Lifelong Education	Q	UK	教育・教育
9 Magnetic Resonance Quarterly	Q	US	医学・放射線医学
10 News Week	W	US	図書館
11 OIKOS Jourual of Ecology	9N	DM	理学・熱海
12 Paleoceanography	B-M	US	理学・海洋
13 Photosynthesis Research	12N	NE	農学・農学
14 Physica. Sect. C: Superconductivity	15N	NE	理学・物理
15 Progress in Human Geography	4N	UK	法文・地理
16 Quarterly Journal of Experimental Psychology, Sect. A: Human Experimental Psychology	Q	UK	教養・心理
17 Research in Higher Education	6N	US	法文・教育心理学
18 The Review of Higher Education.	Q	US	法文・教育心理学
19 The Science of the Total Environment	39N	NE	医学・保健医学
20 Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology	6N	GE	医学・看護学
21 US News & World Report	W	US	図書館

略語 発行頻度 B-M:隔月刊 M:月刊 Q:季刊 S-A:年2回 N:年間発行回数  
発行国 CN:カナダ DM:デンマーク GE:ドイツ NE:オランダ UK:イギリス US:アメリカ

## 1992年版 講読中止外国雑誌

誌名	購入学科
1 American Journal of Psychotherapy	管理センター
2 American Libraries	図書館
3 Annual Book of Standing	工学・建設
4 Architectural Record	工学・建設

5 Behavior Therapy	図書館
6 Biological Conservation	図書館
7 Bulletin of American Railway Engineering Association	工学・土木
8 Computer & Geosciences	理学・海洋
9 Concrete	工学・建設／土木
10 Construction Weekly	工学・土木
11 Crop Research (廃刊)	農学・農学
12 Corrosion	工学・建設／土木
13 Current Contents. Physical Chemical & Earth Sciences	理学・海洋
14 Dissertation Abstracts International. A	図書館
15 Dissertation Abstracts International. B	図書館
16 Encounter (廃刊)	短大・英語
17 Engineering News Record	工学・建設／土木
18 Electromyography and Clinical Neurophysiology	医学・リハビリ
19 Environment & Planning. Part. A	工学・建設
20 Environment & Planning. Part. B	工学・建設
21 Environmental Conservation	図書館
22 Geophysics	図書館
23 Geotechnical Abstracts. English Edition (廃刊)	農学・農業工
24 Health Education Quarterly	医学・保健社会学
25 Health Visitor	医学・看護学
26 International Agrophysics (廃刊)	農学・農業工学
27 Journal of Advanced Nursing	医学・看護学
28 Journal of the American Psychoanalytic Association	保健管理センター
29 Journal of Applied Ecology	農学・農学
30 Journal of Arnold Arboretum (廃刊)	理学・生物学科
31 Journal of Chemical Ecology	図書館
32 Journal of Chromatography Biomedical Applications	図書館
33 Journal of Cranio-Maxillo-Facial Surgery (廃刊)	医学・コア
34 Journal of Food Processing and Preservation	農学・農業工
35 Journal of Gerontological Nursing	医学・看護学
36 Journal of Low Temperature Physics	理学・物理
37 Journal of Psychosomatic Research	医学・精神衛生
38 Journal of Speech and Hearing Research	図書館
39 Journal of Testing Evaluation	工学・建設
40 Library Journal	図書館
41 Marine Ecology	理学・熱海
42 Materials Science & Engineering. A. Structural materials: Properties, Microstructure and processing	工学・機械／エネ機, 短大・機械
43 Naval Research Logistics	工学・電子情報
44 Oceanus	短大・共通
45 Pediatric Surgery International	医学・外科学第一
46 Perceptual and Motor Skill	教育・特殊教育
47 Perspectives in Psychiatric Care	医学・看護学

48	Planner	工学・建設/土木
49	Proceedings of ASCE. Aerospace Engineering	工学・建設/土木
50	Proceedings of ASCE. Cold Regions Engineering	工学・建設/土木
51	Proceedings of ASCE. Computing in Civil Engineering	工学・建設/土木
52	Proceedings of ASCE. Management in Engineering	工学・建設/土木
53	Proceedings of ASCE. Construction Eng. & Management	工学・建設/土木
54	Proceedings of ASCE. Energy	工学・建設/土木
55	Proceedings of ASCE. Environment Engineering	工学・建設/土木
56	Proceedings of ASCE. Hydraulic Engineering	工学・建設/土木
57	Proceedings of ASCE. Irrigation and Drainage	工学・建設/土木
58	Proceedings of ASCE. Performance of Constructed Facilities	工学・建設/土木
59	Proceedings of ASCE. Professional Issues in Engineering.	工学・建設/土木
60	Proceedings of ASCE. Surveying Engineering	工学・建設/土木
61	Proceedings of ASCE. Technical Council Engineering	工学・建設/土木
62	Proceedings of ASCE. Transportation Engineering	工学・建設/土木
63	Proceedings of ASCE. Urban Planning and Development	工学・建設/土木
64	Proceedings of ASCE. Water Resources Planning	工学・建設/土木
65	Proceedings of ASCE. Waterway, Port, Coast & Ocean	工学・建設/土木
66	Proceedings of Institution of Civil Engineering. Part 1. Design Construct.	工学・建設/土木
67	Proceedings of Institution of Civil Engineering. Part 2. Research and Theory	工学・建設/土木
68	Psychotherapy	保健管理センター
69	Review of Scientific Instruments	図書館
70	Sovetskaia pedagogika	教育・教育学
71	The Surgical Clinics of North America	医学・外科学第一
72	Tellus. Ser. A. Dynamic Meteorology and Oceanography	短大・共通
73	Tellus. Ser. B. Chemical and Physical Meteorology	短大・共通
74	Thin Solid Film	工学・機械/エネ機 短大・機械
75	Vision Research	図書館
76	Weed Science	図書館
77	Wilson Library Bulletin	図書館

\* 本館、医分館の双方で2部購入していた Biological Abstracts は医分館で講読中止となったので、本館のみの1部講読となった。

## 1992年版 新規購入国内雑誌

	誌名	刊行頻度	購入学科
1	学校運営	月刊	教育・教育
2	学校運営研究	月刊	教育・教育
3	カレッジ・マネジメント	年6	法文・社会・教育心理

4	季刊 教育法	季刊	教育・教育
5	教育と情報	月刊	法文・社会・教育心理
6	石膏と石灰	隔月	理学・化学
7	内外教育	週2	法文・社会・教育心理
8	日本の教育史学	年1	教育・教育
9	判例地方自治	月刊	教養・法学
10	防錆管理	月刊	工・機械/エネ機, 短・機械
11	保健の科学	月刊	医学・看護学
12	IDE 現代の高等教育	月刊	図書館
13	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition	月刊	医学・臨床病理学
14	Sexual Science	月刊	医学・母子保健

### 1992年版 購入中止国内雑誌

誌名	購入学科
1 看護学雑誌	医学・看護学
2 看護実践の科学	医学・看護学
3 季刊 精神療法	学生部・保健管理センター
4 教育技術 小1	教育・共通
5 教育技術 小2	教育・共通
6 教育技術 小3	教育・共通
7 教育技術 小4	教育・共通
8 教育技術 小5	教育・共通
9 教育技術 小6	教育・共通
10 教育技術 中学教育	教育・共通
11 教育技術 別冊	教育・共通
12 橋梁	工・土木/建設
13 橋梁と基礎	工・土木/建設
14 近代建築	工・建設
15 現代教育科学	教育・共通
16 建築文化	工・建設
17 心の科学	学生部・保管セ
18 授業研究	教育・共通
19 助産婦雑誌	医学・母子保健学
20 初等教育資料	教育・共通
21 精神分析研究	学生部・保管セ
22 総合看護	医学・看護学
23 総合教育技術	教育・共通
24 中等教育資料	教育・共通
25 都市政策	工・建設
26 日本芸術療法学会誌	学生部・保管セ

27	泌尿器科紀要	医学・泌尿器科
28	保健婦雑誌	医学・看護学
29	臨床看護	医学・看護学
30	労働の科学	教育・家政
31	Joint-A	図書館
32	Joint-B	図書館

## 図書館事情

### 〔会議〕

#### ◎図書館運営委員会

第193回 平成4年1月20日(月)

##### 協議事項

- (1)大学改革の推進について—図書館関係— (継続)
- (2)週40時間勤務制実施における附属図書館の開館の検討状況について
- (3)コンテンツ・シートサービスの見直しについて

##### 報告事項

- (1)共同利用学術雑誌専門委員会の委嘱について
- (2)仲宗根資料の整理状況について
- (3)第8次定員削減について
- (4)第28回医学部分館運営委員会について
- (5)図書館職員研修会の開催について
- (6)図書館電算機の稼働式について
- (7)その他

### 〔講演会〕

#### ◎図書館職員研修会講演会

日時：平成4年2月17日(月) 15時～17時

場所：図書館会議室

演題：「大学図書館における利用者教育」

講師：同志社大学文学部教授 大城善盛氏

### 〔行事〕

#### ◎図書館電子計算機システム稼働式

日時：平成4年2月3日(月) 15時～16時50分

**医学部分館だより**

## ◎医学中央雑誌のCD-ROM版を設置しました

医学部分館では、Medline CD-ROM版を導入し利用に供しておりますが、国内文献についてもCD-ROM版で検索したいとの要望が多数ありましたので、このたび医学中央雑誌のCD-ROM版を設置しました。これには現在国内で発行されている医学・歯科学・薬学及びその周辺領域の定期刊行物から採択された、年間約20万件の文献が収録されており、収録雑誌タイトル数は国内2,174タイトル、及び収録年度は1989年以降（データ更新は年4回）となっております。

1992年1月28日に設置し、2月4日～2月7日に利用者説明会をおこないました。その後も随時希望者にたいし説明会をおこなっております。操作方法はMedlineと変わりますが比較的簡単に検索できるようになっております。利用手続きは従来と同様です。また、利用料金は無料です。皆様の多数の御利用をお待ちしております。

## 〔第28回医学部分館運営委員会〕

日時：平成3年11月28日(木) 16:00～17:00

議題：Biological Abstractsの存続について

報告事項：1. 平成4年度講座購入学術雑誌の新規購読および購入中止希望について 2. 医学関係資料の収集について (①体係、全集シリーズもの等の収集について ②医学関係ビデオ資料の収集について ③CD等、New Mediaの収集について) 3. CD-ROM Medlineの利用状況について 4. 平成3年度雑誌制本について 5. 講座備付学術雑誌の目録について 6. 平成3年度試験期休日開館について 7. 複写室、CD-ROM室及び新聞閲覧室の照明の改善について 8. ILLシステムの試験的利用について

## 〔第29回医学部分館運営委員会〕

日時：平成4年1月24日(金) 16:00～17:00

議題：Biological Abstractsの存続について(継続)

報告事項：1. 週40時間勤務制実施における附属図書館の開館の検討状況について 2. 看護学視学委員による実地視察について

琉球大学附属図書館報“びぶりお”第25巻 第1号〔通巻第94号〕

平成4年3月27日 発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

電話 098 (895) 2221 内線 (2143) 編集 びぶりお編集委員会